

## 神奈川県湯河原町におけるコウノトリの観察記録

加藤 ゆき

### Yuki Kato: A Record of Oriental Stork *Ciconia boyciana* at Yugawara, Kanagawa, Japan

#### はじめに

コウノトリ *Ciconia boyciana* はコウノトリ目 Ciconiiformes コウノトリ科 Ciconiidae に属する全長 110 cm, 翼開長 200 cm の大型の鳥類で, 国の特別天然記念物に指定されている (藤巻, 2002)。ロシアおよび中国の国境であるアムール川やウスリー川流域で繁殖し, 中国南部の揚子江下流域で越冬するほか, 少数が朝鮮半島や日本で冬を越す (del Hoyo *et al.*, 1996)。本種は世界的に個体数が少なく総生息個体数は 2000 ~ 2500 羽程度と推定され, IUCN のレッドリストで Endangered と評価されている (BirdLife International, 2001; Brazil, 2009)。また, 2012 年に環境省が発表した第 4 次レッドリストでは, 絶滅危惧 I A 類に選定されている (環境省, 2012)。

コウノトリは, かつて日本では一年を通して見ることができると考えられていたが, 江戸時代の諸国の物産帳や図譜などの記録によると, 東北地方から九州地方まで広く繁殖していたと考えられている。しかし明治時代に入り, 一般人による狩猟の影響や生息環境の悪化に伴い生息数は激減した。その後, 非狩猟鳥や天然記念物に指定され生息数は増加したが, 第二次世界大戦中の営巣木の伐採, 戦後の有機水銀を含む農薬使用の影響によって生息数は再び減少し, 1971 年には最後の野生個体が捕獲され日本での野生個体群は絶滅した (大迫, 2012)。それ以降は大陸から迷行したと考えられる個体が各地でまれに記録されている (日本鳥学会, 2012)。

一方で飼育による生息数増加の試みは 1951 年以降, 神戸市立王子動物園をはじめ東京都恩賜上野動物園, 大阪市天王寺動物園などで進められてきた。当初はまったく雛が生まれなかったが, 1988 年に東京都多摩動物公園が日本で初めて繁殖に成功した。1989 年には兵庫県が, 友好関係を結んでいた旧ソ連のハバロフスク地方から寄贈された個体を使って繁殖に成功した。以後, 大阪市天王寺動物園等も含め, 国内での飼育施設では順調に個体数を増加させている (大迫, 2012)。

兵庫県では飼育下での生息数の増加を受け, IUCN の Guideline for re-introduction に準拠してコウノトリの野生復帰事業をすすめるため, 飼育施設で繁殖をさせた個体を 2005

年から野外に放してきた。2008 年には放鳥個体の野外での繁殖も確認され, 2015 年 8 月現在, 豊岡市を中心に 83 羽が確認されている (兵庫県立コウノトリの郷公園, 2015)。

今回は, 神奈川県足柄下郡湯河原町に在住の芹澤亜紀氏より, 兵庫県の放鳥由来のコウノトリの観察事例が写真とともに寄せられたので, ここに報告する。

#### 種の同定と観察状況

観察当日である 2014 年 3 月 6 日に芹澤氏から, 電柱の上に止まっていた大型の鳥類について, 種名を尋ねる電子メールが寄せられた。メールには複数枚の写真が添付されており, 写っている個体は頭部から体の上面と下面にかけて白色で風切羽が黒色, 足がすわりと長く赤色であった (図 1)。これらの特徴を持つのはコウノトリまたはシロバシコウ *Ciconia ciconia* であるが, 嘴が太く黒色であることからコウノトリと同定した。

観察された場所は湯河原町吉浜であり標高約 10 m, およその緯度経度は北緯 35 度 9 分 40 秒, 東経 139 度 7 分 30 秒である。真鶴町岩海岸から西に 1 km ほど入った農耕地と住宅とが混在する地域である。芹澤氏は同所で, 3 月 6 日午前 7 時ごろ電柱に止まっていたコウノトリを発見した。50 分ほど同じ電柱にとどまり, その間に両翼を後方に伸ばしたり (図 2), 足で頭を掻く動作 (図 3) を確認した。なお, 芹澤氏によると同日以降はコウノトリを確認していないとのことだった。

#### 個体の由来

写真を細かく解析したところ, 今回観察された個体は左脚に 3 個, 右脚に 2 個のカラーリングをつけていることが判明した。このような標識方法は, 野鳥を野外で個体識別をするために研究者が導入する手法であり, 埋め込み式のマイクロチップや施設名を記した金属製の足環等で管理されている動物園等の飼育由来の個体とは考えにくい。

そのため, 野生復帰計画による放鳥個体情報を管理している兵庫県立大学自然・環境科学研究所准教授の大迫義人氏に写真を添付したうえで問い合わせたところ, 「写真が不鮮明で個体を確定しにくい, 右脚に 2 個, 左脚に 3 個のカラーリングをつけるのは (兵庫県) 豊岡での



図1. 電柱にとまるコウノトリ。2014年3月6日, 芹澤亜紀氏撮影。



図2. 両翼を後方に伸ばすコウノトリ。2014年3月6日, 芹澤亜紀氏撮影。



図3. 足で直接頭搔きをするコウノトリ。2014年3月6日, 芹澤亜紀氏撮影。

標識方法であり、豊岡由来の個体といえる。この個体の右脚につけているリングは2個とも「黒」、左脚につけているのは「黄・青・黄」、または「黄・緑・黄」のように見え、その条件に合う個体は「J0041」または「J0046」である。」との回答をいただいた。

大迫氏から提供いただいた「J0041」と「J0046」の目撃情報によると、「J0046」は2013年9月から2014年4月にかけて兵庫県や京都府を中心に確認されている。一方で「J0041」は2014年1月26日長野県上田市で目撃されたあと、千葉県香取郡多古町で2014年3月6日午前9時に確認されている。このような状況から、今回観察された個体は「J0041」である可能性が高く、多古町に移動する途中に一時的に湯河原町に立ち寄ったものと考えられる。なお、「J0041」は2011年5月17日に豊岡市でオスの放鳥個体「J0405」とメスの野生個体の間に生まれたメスの個体である(兵庫県立コウノトリの郷公園, 2015)

### まとめ

今回の報告以前に神奈川県では野生個体だけではなく、放鳥個体も含めコウノトリの渡来記録は見られず、この観察事例は県内での初記録となる可能性が高い(日本鳥学会, 2012; 日本野鳥の会神奈川支部, 2013)。

放鳥されたコウノトリのなかには長距離を移動するものも多く、兵庫県で放鳥、あるいは野外で繁殖をした複数の個体が宮城県や長野県、茨城県、山梨県、静岡県、愛知県、京都府、島根県、山口県、愛媛県、高知県、長崎県、鹿児島県など各地で観察されている。さらに韓国南部の金海市や済州島まで移動した事例も報告されている(兵庫県立コウノトリの郷公園, 2015)。2015年7月に千葉県野田市で野生復帰計画により放鳥された3羽のうち2羽は宮城県、1羽は茨城県に移動したことが確認されている(野田市, 2015)。

このように、コウノトリの放鳥個体が日本各地で観察される事例が多くなっており、今後、野生復帰事業による放鳥が進めば、今まで渡来記録が見られなかった神奈川県でも観察事例は増えると考えられる。実際、2014年10

月には神奈川県藤沢市および横浜市で2013年に兵庫県朝来町で放鳥した「J0481」が確認されている(兵庫県立コウノトリの郷公園, 2015)。

### 謝辞

貴重な観察記録を寄せていただき本報告での写真の使用をご快諾いただいた芹澤亜紀氏、コウノトリの放鳥個体の由来や動向についてご教示いただいた兵庫県立大学准教授大迫義人氏に感謝の意を表します。また、本稿をまとめるにあたり、査読いただいた秋山幸也氏と有益なご助言を頂いた編集委員会の皆様に深謝します。

### 引用文献

- BirdLife International, 2001. Threatened birds of Asia: The BirdLife International Red Data Book. 3038pp. BirdLife International, Cambridge.
- Brazil, M. 2009. Birds of East Asia: eastern China, Taiwan, Korea, Japan, eastern Russia. 528pp. Princeton University Press, London.
- del Hoyo, J., Elliot, A. & Sargatal, J. 1992. Handbook of the Birds of the World Volume 1: Ostrich to Ducks. 640pp. Lynx Edicions, Barcelona.
- 藤巻裕蔵, 2002. コウノトリ. 環境省編, 改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物—レッドデータブック— 2 鳥類, pp.52-53. 財団法人自然環境研究センター, 東京.
- 兵庫県立コウノトリの郷公園, online. 兵庫県立コウノトリの郷公園. <http://www.stork.u-hyogo.ac.jp/index.php> (accessed on 2015-August-20).
- 環境省, online. 環境省自然環境局野生生物課, 2012. 【鳥類】環境省第4次レッドリスト(2012) <分類群順>. <https://www.env.go.jp/press/files/jp/20551.pdf> (accessed on 2015-August-20)
- 日本鳥学会, 2012. 日本鳥類目録 改訂第7版. 438pp. 日本鳥学会, 三田.
- 日本野鳥の会神奈川支部編, 2013. 神奈川の鳥 2006-10—神奈川県鳥類目録VI—. 362pp. 日本野鳥の会神奈川支部, 横浜. 野田市, online. コウノトリ放鳥情報. <http://www.city.noda.chiba.jp/kurashi/oshirase/seikatsukankyo/1006581.html> (accessed on 2015-August-26).
- 大迫義人, 2012. コウノトリの絶滅から保護・増殖, そして野生復帰. 日本鳥学会誌, 61, Special Issue, pp.91-93.

加藤ゆき：神奈川県立生命の星・地球博物館